

A-57 幼児の食型態に関する研究（第1報）
—幼稚園児の弁当内容について—

九州女大家政 石松 成子
○福原キミエ

1. 幼児期についての、食型態の研究は乳児期、学童期のものに比べて少ない。そこで幼稚園児の弁当について、二年保育（4歳児組）一年保育（5歳児組）について、内容がどのようなものであるか調査した。

2. 公立幼稚園4歳児組、5歳児組について、計量により、弁当内容を記録し、残食を差引いて純摂取量とし摂取栄養量、摂取食品量、価格について調査した。

3. 弁当の外観的調査については、4歳児より5歳児の方が分量が多い。この多い分量は米飯である。副食の食品数、食品の組合わせ、その他についてはほとんど差はみとめられなかった。

弁当内容の質的調査については、残食は5歳児の方が多。特に米飯を残していた。これからみて副食の量は4歳児も5歳児もあまり差はなく、子供の成長につれて増量するのは米飯だと考えられる。栄養素間の均衡について4歳児の方が望ましい状態にあるといえる、価格については、分量が少ないにもかかわらず、4歳児の方が高くなっている。

以下これらのことについて詳細に報告する。